

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 芦屋健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>当管内では、LDL コレステロール高値者の割合が県平均より高い傾向が特定健診結果から示唆され*¹、中年期から高齢期にかけて脂質異常が持続・進行しうることが課題である。</p> <p>さらに、LDL コレステロールは食事中の飽和脂肪酸摂取量と関連することが示されており*²、阪神間の食傾向を飽和脂肪酸の観点で見ると、洋菓子や肉類の摂取頻度が高く、魚の摂取が少ない傾向がみられる*³。</p> <p>これらの地域特性と併せて、働き盛り世代へのアプローチが相対的に手薄であることが、前年度の健やか食育推進会議での整理から明らかとなり、職域と地域を横断した実態把握と行動変容を促す食環境づくりが求められる。</p> <p>※1 兵庫県健康Dataダッシュボード2016-2018, ※2 日本人の食事摂取基準(2025年版) 策定検討会報告書, ※3 令和3年度ひょうご食生活実態調査</p>
今年度の推進方策	<ul style="list-style-type: none">・働き盛り世代を対象に、健康づくりの意識啓発の機会を設ける。・働き盛り世代を取り巻く食環境・食生活の実態を把握し、優先的に取り組む食生活改善アプローチを検討する。・栄養関係機関・団体との連携を継続し、地域課題の改善に向けた共通理解の形成と協働を推進する。
成果	<ul style="list-style-type: none">・関係団体と連携し、働き盛り世代を対象とした食育事業を実施。加えて食生活アンケートの実施・分析を通じ、地域における優先的な食生活改善アプローチの方向性を整理できた。・地域活動栄養士との情報共有・意見交換を継続し、市の健康相談等の現場で地域の健康課題を意識したアプローチを促進する共通認識を醸成できた。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・職域を中心とした継続的な普及・啓発を通じ、働き盛り世代が日常的に接触できる環境での啓発を継続する。また栄養関係機関・団体との情報共有・意見交換を広げ、協働事業の機会を拡大する。

2 会議の開催状況

実施日時	1 令和7年7月25日(金) 15:30~16:00 令和7年8月1日(金) 15:00~16:00 2 令和7年9月10日(水) 9:30~10:40
参集者 (団体数 及び人数)	1 A病院(芦屋栄養士会・給食施設協議会)、院内コンビニ店長 延べ4名 2 芦屋在宅栄養士会 7名
協議内容	1 ・事業全体の説明、病院側の健康イベント計画の共有 ・健康イベント実施内容・役割分担、食生活アンケートの実施方法、売れ筋商品のヒアリング 2 阪神南地域の健康課題の共有、管内住民の食傾向に関する意見交換
今後の方策	引き続き、情報共有・意見交換を通じて連携・協働事業を実施する。地域全体での食育推進に資するよう、参集対象の拡大も検討する。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	働き盛り世代の食習慣改善を目的とした食行動アプローチの検討・強化		
対象及び参加者数	①給食施設（事業所・寮） 5施設 ②③給食施設（A病院）の職員 115名		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	①令和7年6月～令和8年3月 各事業所・寮	○実地調査 ・健康課題・食環境・食育の取組状況をヒアリングし、地域課題と当所の推進方針を共有	芦屋健康福祉事務所
	②令和7年9月17日(水)12:00～13:30 給食施設（A病院）	○働き盛り世代への健康イベント ・健康チェック体験 ・食育動画の投影 ・パネル展示・食事指導 ・食生活アンケート調査	A病院管理栄養士（芦屋栄養士会・芦屋給食施設協議会）、明治安田生命保険相互会社、実習生、芦屋健康福祉事務所
③令和7年9月～令和8年3月	○食生活アンケートの分析 ・9/17実施のアンケートの分析結果等をA病院にフィードバック	芦屋健康福祉事務所	
成 果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設ヒアリングを通じ、関心度の温度差や小規模・段階的な働きかけの必要性を把握することができた。 施設イベントでは高い関与(参加115名)が得られ、アンケートは97.4%回収。働き盛り世代の重点アプローチが明確化した。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実地調査の実施：目標6/6施設→実績5/6施設 食生活アンケートの回収率：目標80%→実績97.4% 連携体制(継続連携の維持)：目標1機関2団体→実績0機関2団体(関係機関との接点再構築が課題) 		
今後の課題	<p>○連携の拡大と職域展開</p> <p>働き盛り世代へのアプローチを継続するため、病院での継続的な実施体制の構築や病院以外の給食施設・事業所との調整を進め、小さな取組から段階的に着手できる連携モデルを増やす。</p> <p>○実態調査とエビデンスの蓄積</p> <p>今回のアンケート調査の限界点を踏まえつつ、定点的な把握を継続し、行動変容の兆候や食環境施策の効果を検証しながら、実施内容に反映する。</p> <p>○プレコンセプションケアの視点を含む統合的対策</p> <p>前年度の健やか食育推進会議で意見のあった「プレコンセプションケア」の視点を踏まえ、働き盛り世代を対象とした対策に同時に組み込めるよう、推進方策・活動設計を検討する。</p>		

※プログラムや内容が分かる資料を抜粋し添付すること。

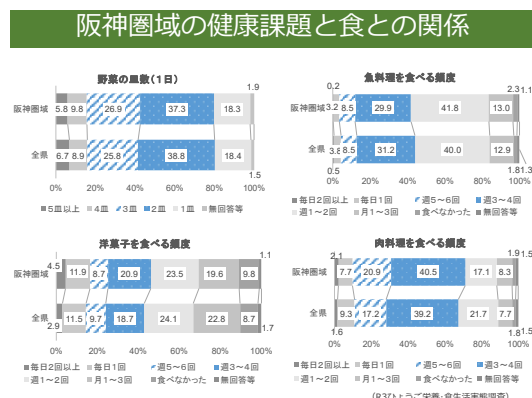
令和7年度 健やか食育プロジェクト事業

～働き盛り世代の食習慣改善を目的とした食行動アプローチの検討・強化～

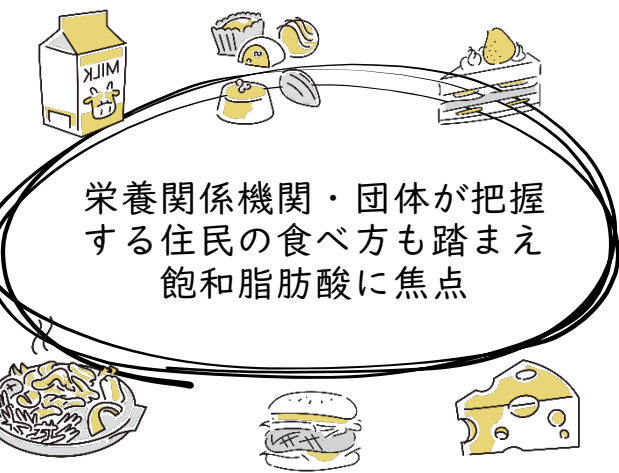
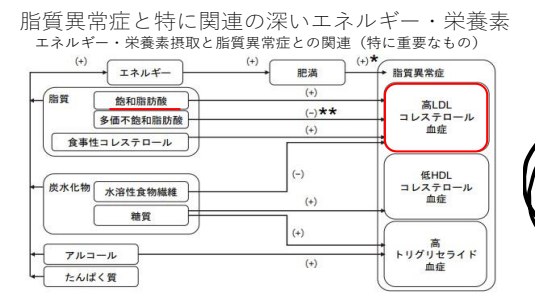
背景

- 芦屋管内は、LDLコレステロール高値者の割合が県平均より高い。
- LDLコレステロールは食事中的飽和脂肪酸摂取量と関連することが示されており、阪神間の食傾向を飽和脂肪酸の観点からみると、洋菓子や肉類の摂取頻度が高く、魚の摂取が少ない傾向がみられる。
- また、働き盛り世代へのアプローチが相対的に手薄であることが、令和6年度の健やか食育推進会議（管内の栄養関係機関・団体との食育推進方策検討・意見交換の場）の整理で明らかとなり、職域と地域を横断した実態把握や食環境づくりが求められる。

～管内の食育の取組状況・健康課題と食の関係（令和6～7年度食育推進会議より）～



健康課題と栄養素との関係



*肥満を介する経路と介さない経路がある。
 **飽和脂肪酸と置き換えることによって低下させる。
 この図はあくまでも概要を理解するための概念図として用いるに留めるべきである。
 出典：「日本人の食事摂取基準(2025年版)」策定検討会報告書 | 厚生労働省

令和7年度の取り組み

○給食施設と連携した食育活動

- 病院管理栄養士と協力のもと、病院職員を対象に、昼休憩の時間を活用した健康イベントを実施。
- 自身の健康状態を見直し、日々の食生活を見直す機会となるよう、各ブースを設置。
 - ・健康チェック体験（ベジチェック・血管年齢測定）
 - ・食育動画の投影
 - ・パネル展示・食事指導



○働き盛り世代を取り巻く食環境・食生活の実態把握

- 管内の給食施設への実地調査
 - ・健康課題、食環境、食育の取組状況をヒアリング
 - ・管内の健康課題と当所の推進方針を共有
- 働き盛り世代を対象とした食生活アンケートの解析・まとめ
 - ・飽和脂肪酸の摂り方に絞り、管内で優先度が高いアプローチ（食品）を検討

次年度の取り組みの方向性

- 連携の拡大と職域展開
 - ・働き盛り世代へのアプローチを継続するため実施体制の構築を行う
- プレコンセプションケアの視点を含む統合的対策
 - ・令和6年度の健やか食育推進会議で意見のあった「プレコンセプションケア」の視点も踏まえ、働き盛り世代を対象とした対策に組み込めるよう、活動設計を検討する